



60年近くの歴史を持つ日置のイチゴ栽培。現在は中川・土橋地区で約20軒のイチゴ農家があり、ビニールハウスが立ち並ぶ姿は「イチゴ団地」とも呼ばれている



手作業で一つひとつ丁寧に収穫されたイチゴ



脱サラして新規就農！ 成長を続けるイチゴ農家

現在はビニールハウス10棟分、約25アールの畑でイチゴを栽培している仲村夫妻。今後はもう少し栽培面積を増やしたいのだそう



日置イチゴのイベント企画やPR活動について話し合ういちご部会のメンバー



イチゴは夜明け前から収穫する。農業技術の発達により、1年のうち約半年間は収穫が可能



「ご縁のあった方々への感謝を忘れないように」という思いで名付けられた「お結びいちご」。

ネット通販も開始。

仲村雅農園

雅史さんは、日置市のイチゴ農家などで組織される「いちご部会」で副会長を担当。「日置のイチゴの魅力をもっと多くの人に伝えたい」と、PR活動にも積極的に取り組んでいます。また、自身のイチゴを「お結びいちご」と名付けてブランド化を図るとともに、昨年からは、それまで育てていた「さつまおとめ」「さがほのか」の2品種に加え、「ぴかいち」の栽培にも挑戦。「ぴかいち」は、県が育成した新品種で、クリスマスの需要がある12月から

皆で助け合って 美味しいイチゴを作る

仲村雅史さんは、妻の真由美さんと共に2016年から日置市でイチゴの生産を始めました。以前は兵庫県でサラリーマンをしていますが、早朝から深夜まで働き、家族で食卓を囲めない生活に疑問を抱き、転職を考えるように。転職フェアなどに参加したことをきっかけに、農業に興味を持ったそうです。さらに真由美さんが鹿児島出身で、イチゴの産地である日置市中川地区に親戚が住んでいたため、同地区のイチゴ農家の方々にも相談。「加勢するからやってみな」という温かい

家族で食卓を囲める 生活に憧れ就農を決意

仲村雅史さんは、妻の真由美さんと共に2016年から日置市でイチゴの生産を始めました。以前は兵庫県でサラリーマンをしていますが、早朝から深夜まで働き、家族で食卓を囲めない生活に疑問を抱き、転職を考えるように。転職フェアなどに参加したことをきっかけに、農業に興味を持ったそうです。さらに真由美さんが鹿児島出身で、イチゴの産地である日置市中川地区に親戚が住んでいたため、同地区のイチゴ農家の方々にも相談。「加勢するからやってみな」という温かい



今回の農家

イチゴ農家

取材協力

仲村雅農園(日置市)
なかむら まさふみ
仲村 雅史さん

保険会社を退職後、家族と共に兵庫県から移住し新規就農。日置市土橋地区で3品種のいちごを栽培。



出荷ができる糖度の高いイチゴです。まだ試行錯誤の最中とのことですが、より良い栽培方法を見つける過程も楽しいのだそう。昨夏、仲村さん一家は就農後初めて旅行に行きました。不在時の苗の世話は、パートの方々が引き受けてくれたそうです。「頼れば助けてくれる人も多い。誰かの力を借りて、たまに息抜きするのも大切です」と真由美さんは言います。お客さんの「おいしい」という声何より嬉しいと話すと2人は、それを励みに地域の方と助け合いながら、今日も真っ赤なイチゴを収穫します。

お知らせ

農業の求人・求職をサポート！ / 県農業労働力支援センター

「正社員や外国人材を受け入れたい」「農業法人で働きたい」といった農業の求人・求職に関する相談に対応しています。ぜひ御連絡ください。

問い合わせ先
公益社団法人鹿児島県農業・農村振興協会
Tel. 099-213-7225